

資料合わせ打ち合わせ 解説 (裏方編)

熊本国府高等学校
草原俊寛/谷口晋平

県内の大会の打ち合わせ会で必要な裏方の資料は次の通りである。

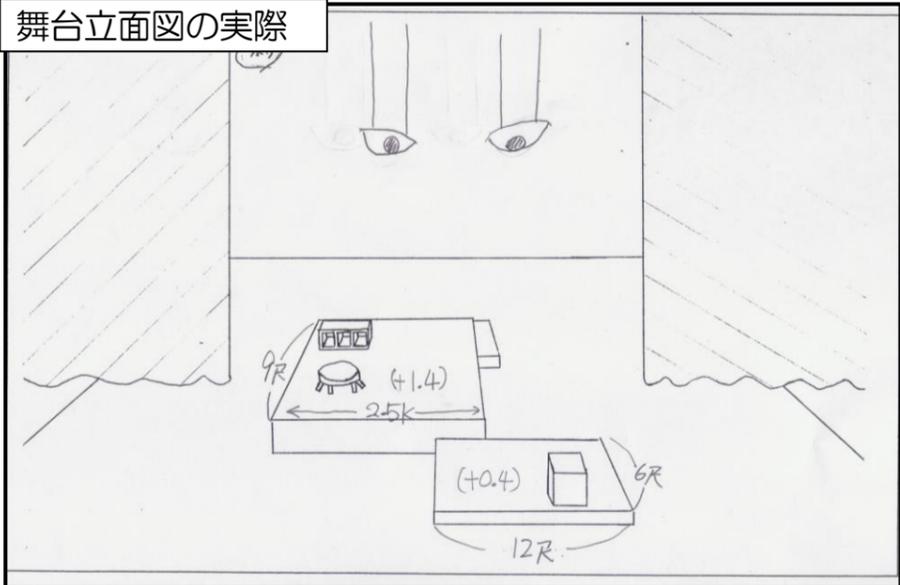
- ① 舞台立面図
 - ② 舞台平面図
 - ③ Cue台本
 - ④ 照明Cueシート
 - ⑤ 音響Cueシート
 - ⑥ 音響機材リスト
- ここでは、各々の資料の役割と記入上の注意について解説する。
なお専門用語の解説は「高校生のための舞台用語集」を参照のこと。

① 舞台立面図

舞台を正面から見た絵である。お客様から見た感じが理解できる。舞台を水平に見た感じではなく、少し高いところから見た雰囲気を描く方がよい。一点透視法などを用い、奥行きを感じられる絵にする。舞台の広さ(間口や奥行き、高さ)を考慮し、セットするもののおおきさや位置関係が分かるようにする。

描けない時は実際のセットを体育館などで配置し写真を撮るのも一つの手である。
また、舞台の模型を作り、それを見ながら描くのもよい。模型の土台には平面図の拡大コピーを貼り、セットするものの寸法の縮尺が合うように作った模型を置く。
舞台模型は役者の登退や見切れなどを確認する上でも、稽古の時に準備しておくと便利である。

舞台立面図の実際



② 舞台平面図

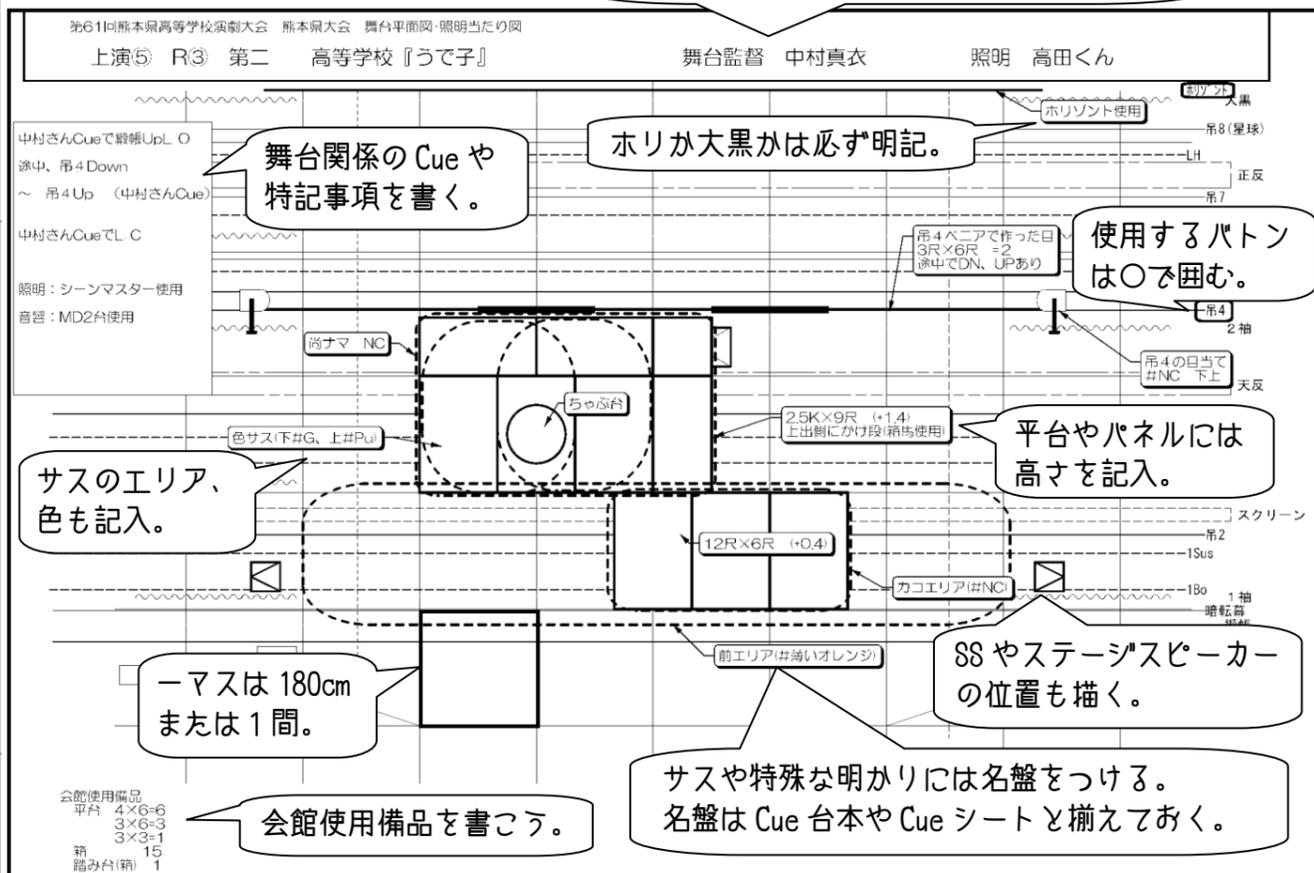
舞台を真上から見た図である。舞台図、平面図ともいう。セットやサス位置などを記入する。舞台平面図には舞台の広さを表す升目が描いてある。これは平面図を描いたり、実際に仕込みするときの基準となるラインで、その幅は18センチまたは1間である。照明や音響などの仕込みもこの平面図を基準にするので、位置や大きさを正確に描く必要がある。
また、平面図には、照明バトンや美術バトン、袖や割、緞帳・ホリソントの位置など、設備があらかじめ描いてある。特に照明バトンと美術バトンは迫っている場合が多いので、照明バトン近くの美術バトンに吊り物をするときは注意が必要である。照明バトンに吊る照明器具は、程よく向きを変えるのでその厚みを考慮しなければならない。

舞台平面図を描く上での最初の注意点は、舞台上にセットする物の大きさを正確に把握することである。例えば日頃使っている机や椅子が寸法通りに描いてないことがある。実際に寸法を測ってその通りに描いてほしい。パネルや平台を使う場合は高さを記入する。会館で準備するものが変わってくるので、高さは必ず記入しよう。

熊本県の高校演劇の平面図には、照明の当たりや、ステージスピーカーの位置もともに描くようにお願いしている。さらに、会館使用備品の員数や舞台関係の大きかなCueも書いてあると便利である。
平面図を描くのに苦労する場合は、①舞台立面図でも紹介した舞台模型を上から見ながら描くのもよい。

舞台平面図の実際

学校名・演目・舞監・照明担当者名を書く。



⑤ 音響Cueシート

音響の操作のきっかけや操作内容、音の出るスピーカーの種類、エフェクトなどの効果が時系列に書かれたシートのこと。

一つの操作が1Cueなので、例えばME1が流れて、役者のポーズでSE1が入り、SE1が終わり、動きでME1が終わる。この流れだと、4つのCueとなる。

音響は出音の位置が大切。必ず明示すること。また、リハーサルで音量の記録をとることを考えれば、Cueシートの1Cueの縦幅は、照明と同じで広いほうがよい。

⑥ 音響機材リスト

音響で使用するメディア・スピーカーなどを書く。また持ち込み機材があるときは、その機材の名称、OUT端子の形状などを記入しておく必要がある。

参考資料 (実際のを多少デフォルメしています)
第二高校「うで子」立面図・平面図
必由館高校「Fainal Disease」上演台本・照明Cueシート

Cue 台本の実例

Cue 台本は舞台、照明、音響などすべての Cue が 1 冊の台本に記入されたもの。役者にも見せておくとも便利。

照明や曲の名盤や番号を入れて。
Cue 番号を入れてもよい。その場合 Cue シートとリンクさせておく。

本ベル (客電 F/O) / AN / SE① F/I

舞監 Cue 2 L/O (部屋明り)

SE② F/I (時計) / SE① F/O (時計)

部屋明り F/O

PP① CO 後 / 教室明り F/I / 同時 Cue / SE② F/I (教室のテーマ) / PP① / C/O ← C/I

暗転

片桐 ちよつとこのダンボールとてやー。
しなの いや、これ重い。普段ウチ、マウスより重いものもたないのに無理だって常考。

暗転。日付が表示される
金曜日、文化祭前日
明へくなくそこは教室。教室の飾り付けをする5人。

幕開きは本ベルからの流れを書く。
大会では本ベル後紹介アナウンスがあるので、それも記入。
幕閉めも幕開き同様重要なすっかけなので、しっかりと順番通りに書いていく。
特に舞台さんにすっかけや Cue を出す人を書いておくとも親切。

幕開きは本ベルからの流れを書く。
大会では本ベル後紹介アナウンスがあるので、それも記入。
幕閉めも幕開き同様重要なすっかけなので、しっかりと順番通りに書いていく。
特に舞台さんにすっかけや Cue を出す人を書いておくとも親切。

きっかけになる台詞やト書きの位置が分かるようにする。

台本にはページを入れる。
台詞番号を入れてもよい。

~ 2 ~

③ Cue 台本

舞台・照明・音響の操作のきっかけや操作の順番、操作後の変化の様子のすべてが、一冊の台本にすべて記入されているものをいう。
これを読めば、舞台上でやりたいことのすべてが分かるように書く。
逆に言うと、Cue 台本が書ければ照明や音響の Cue シートはすべて書けるようになる。
Cue 台本は、舞台の全体が時系列で分かるもので、照明や音響の Cue シートはその専門分野の抜粋ということになる。Cue 台本だけあれば照明や音響の Cue も分かるが、各々の準備を正確かつ迅速に行い、本番をスムーズに迎え実施するには、それぞれの Cue シートも必要になる。

④ 照明 Cue シート

照明操作のタイミング (きっかけ) や操作の種類、操作後の明かりの雰囲気や時系列に書かれたシートのこと。
明かりを作る時、照明家は様々な事を考える。灯体の種類、吊位置、フォーカス、向き、台数、フィルターの種類、小屋の特性、セットや衣装の色合いなど。高校生でそこまで考えるのはかなり難しい。ここは専門家の力を借りよう。
打ち合わせ会で自分たちの作りたい明かりの雰囲気や正確に伝え、会館の照明さんに作ってもらい、本番に備えよう。
シートの書き方の注意点。一つの操作が 1 Cue なので、例えばホリが青くなって、そのあとトップサスが点き、オツカケで key ライトが点く。この流れだと、3 つの Cue となる。
Cue シートはリハーサルするときなどに変更や追加があるので、1 Cue の縦幅は広いほうがよい。A4 横置きでの Cue シート一枚におおむね 5 Cue 分を入れるよう心がけてほしい。

照明 Cue シートの実際

学校名・演目・照明担当者名を書く。

第61回熊本県高等学校演劇大会 熊本市地区大会 照明Cueシート										担当者	坂本 奏子
Cue No	REMARK	水平		地明かり		ブッチ	バック	CL		SS	Special
		UH	LH	DB	W			LB	W		
1	本ベル (客電 OUT) ~ アナウンス ~ SE① [時計] F/I 舞監 Cue で 部屋明かり F/I 追っかけて 緞帳 Up	#W 部屋明かり									部屋サス L/O ↑
2	p.2 セナ「...できない。」で F/O → 暗転										部屋サス 暗転 ↓
3	p.2 PP① [◇◇◇◇◇] C/O で 教室明かり F/I	#W 教室明かり (ホリ無)			下 O				下 O		
4	p.4 PP② [△△△△△] C/O で 部屋明かりに Cross	Cue1 と 同じ									部屋サス ↑
5	p.5 セナ「...急がないと！」で C/O → 暗転										部屋サス 暗転 ↓

幕開き、幕閉め、暗転、転換は、照明だけでなく舞台や音響、役者にも係わる重要な場面である。Cue シートには赤字で書くかマーカーなどで印を入れると他のスタッフにも親切である。

幕開きのパターン。

シーンの明かりの雰囲気をつくる。

シーン明かりで使いたいライト。

各 Cue の REMARK には台本のページ、操作に入るタイミング、操作の種類をかく。特に幕開き、幕閉め、暗転は重要。